

インデックスは、面白いぞっ!

念願の理事長杯優勝を果たしました。

世界共通のオフィシャル・ハンディがいいね。

実力に近い数字で公平に楽しめる。

ビジターでも取得(有料)できるのがいい。

月例に新顔メンバーの参加が多くなった。

プライベートでも“一球入魂”真面目にやるぞ。

倶楽部ハンディではこんなスリル感はない。

月例の交流競技も開催できると一層面白くなる。

写真：片山津ゴルフ倶楽部月例競技（5月25日・白山コース）

倶楽部競技にHdcp新時代 インデックス効果

JGA / USGAハンディキャップシステムによって算出されるハンディキャップインデックス(略称:インデックス)が、今年の1月1日から新しく日本のオフィシャルハンディキャップシステムとなった。

これからは「あなたのハンディキャップは幾つですか」という問いではなく「あなたのインデックスは幾つですか」ということになる。

インデックスは毎月の月初めに、登録している全国のゴルファー全員のものが更新される。

ゴルファーは、更新されたインデックスに基づき、ラウンドするコースのスロープレーティング換算表でコースハンディキャップに換算してラウンドすることになる。したがって、今までどこのコースでラウンドしても取得したハンディキャップは変わらなかったけれど、インデックスのシステムは、あなたの今の実力とラウンドするコースの距離と難易度を合わせた技で、コースハンディキャップの数字に置き換えてプレーするのである。「インデックス」とは、指数、指標の意味で目的の情報を探するための手がかりとする数値。(広辞苑より)

現代のスポーツは、ますますデジタル化が進んでいる。ゴルフもコンピュータを駆使して楽しむ時代になった。

「今日は、H・C・Pを3つくれよ」とスタートホールのテイニンググラウンドでハンディキャップの駆け引きをすることを懐かしむゴルファーに、今は出会うことは珍しい。ましてや競技となると曖昧性は極力無くさねばならない。

アマチュアゴルフの発展のためには、スクラッチプレーの競技よりは、誰でも公平に競い合えるアンダーハンディキャップ競技の盛況がカギとなる。

老若男女、100以上をたたく人も、シングルプレーヤーも同じ土壌で公平な条件で楽しめるハンディキャップの出現が待ち遠しかった。

そして、ようやく日本でも「インデックス」の導入がなされた。世界61の国と地域が承認している「インデックス」を、今後、日本でもどのように育てていくかメンバー一人ひとりのゴルフの良識に問いかけている。

※「インデックス」は、コースレーティングとともにスロープレーティングを取得しているコースでないと使えません。中部地区におけるゴルフコースの取得の有無は中部ゴルフ連盟のホームページでお調べください。